

====このお便りは私が担当する太極拳教室の皆さんに8月を除き毎月お届けしております。====

トピックス 新年を迎えて

皆様明けましておめでとうございます。今年も太極拳を通じてのお付き合い、よろしくお願いいたします。

年末の12月23日の夕刻に、当日に開設50周年を迎えた東京タワー(写真)へ妻とふたりで行ってきました。実はわれわれもちょうど結婚50年ということで格別の思い出があったからです。(この雲の手通信もお蔭様で50号をクリアしました。)まさに昭和というひとつの時代のランドマークである東京タワーを見上げながら、この50年間の私どもの過ぎ来し日々や、社会の移ろいに思いをはせてきました。

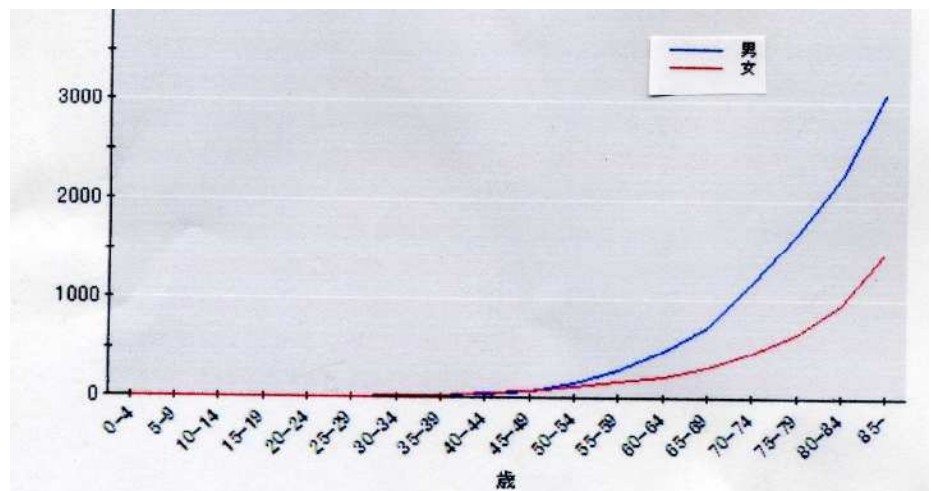
ところで、いつも皆様には出来るだけ毎日太極拳をやりましよう、と申し上げていますので、自分もそのように努めていますが、昨年1年間念のため記録を取ってみました。私の場合、教わる会、教える会、大会などの行事参加、早朝自主練習とさまざま、日に2回という日も少なくありません。結果は1年間の総回数は412回でした。ただ、まったくしなかった日が31日もありました。旅行とか悪天候とか寝坊などがその理由でしたが、今年はこの不実行日を出来るだけ減らすように心がけようと思っています。



健康妄語録 男性が短命な本当の理由！～その1

男性が女性に比べて、どの民族でもどの国家でも、明らかに短命であることはよく知られています。日本では平均寿命で6.9歳の差がありますし、ロシアではなんと13歳の差があるそうです。人口比でも日本では女性が300万人も多く、また100歳を超える男性の数は女性の六分の一にすぎないという数字もあります。このことは国立がんセンターが発表している「がん統計」でも、罹患率、死亡率ともに、60歳代以降では男性の数値が女性に対して顕著に高いことでも裏付けられています。(下表は年齢別がん死亡者数推移・人口10万人当たり・2005年統計)

その理由は要するに“本来男性(オス)は出来そこないなのだから当然である”というのが、最近読んだ「できそこないの男たち」(光文社新書・福岡伸一著)の明快な説です。同様な説は「雌と雄のある世界」(集英社新書・三井恵美子著)でも展開されていて、こちらの本の帯封には“男性はいずれ絶滅してしまう!?”とあるので穏やかではありません。いずれも生物化学、遺伝子学の精鋭学者の説だけにたいへ



う!?”とあるので穏やかではありません。いずれも生物化学、遺伝子学の精鋭学者の説だけにたいへ

